

家計調査の改善に関するタスクフォース取りまとめ（案）



GDPの約6割を占める個人消費全般の動向をよりの確に把握するため、今後取り組むべき事項などについて検討を行うことを目的として「家計調査の改善に関するタスクフォース」（座長：美添泰人 青山学院大学経営学部プロジェクト教授）を開催

改善の方向性

家計調査について、以下に掲げる3つを柱として、同調査の調査方法や公表体系を見直し、より分かりやすく、充実した家計消費統計の整備に取り組むことが肝要

1) キャッシュレス化等に対応した調査方法の見直し - ICTの活用、記入負担の軽減 -

- ・オンライン家計簿の導入（レシート読取機能、家計診断機能等の実装）
- ・家計簿記帳事項の簡略化
- ・ICTを活用した新たな収支把握の方法の検討

2) 家計消費統計のデータ整備・公表体系の見直し - 新たな総合指標の開発 -

- ・家計調査を補完し、家計消費動向をよりの確に捉える基礎データの整備
- ・ビッグデータ等も活用し、景況判断に資する個人消費全体の動向を推定する新たな指標開発の検討

3) 統計ユーザーとのコミュニケーションの充実 - 理解の浸透、的確な市場分析への寄与 -

- ・統計ユーザーに対する情報提供の工夫
- ・エコノミスト等との定期的な対話の場の設置

キャッシュレス化等に対応した調査方法の見直し

家計調査を今後も継続的・安定的に実施し、家計収支を正確に把握するため、家計簿記入負担の軽減を図るとともに、キャッシュレス化の進展等も見据え、ICTを積極的に活用した調査方法の進化・改善に取り組むことが必要。

調査世帯が記入する家計簿について、現物収支の記帳廃止を含む記帳事項の簡略化のほか、今後のキャッシュレス化の進展等も見据え、FinTechとのシステム連携等も検討



スマートフォン、タブレット対応
- 使いやすいインターフェイス -

レシート読取機能の実装
- 手軽な家計簿記帳 -

- 各世帯の家計収支の視覚化、推移・分布等の解析レポートの還元
- 現物収支の記帳廃止を含む家計簿記帳事項の簡略化
- FinTechとのシステム連携(収支の自動把握)等も併せて検討



FinTech:ICTを活用した新たな金融サービス



キャッシュレス化の進展等を見据えた各種カード、ポイントサービス等との連携も視座に検討

家計消費統計のデータ整備・公表体系の見直し

家計調査は、速報性があり、費目別・年齢別・地域別の傾向等の分析が可能といった特長を持つが、サンプル調査としてのバラつき等は不可避。また、国全体の消費動向を示すGDP等のマクロ統計とは異なり、月次の公表では単身世帯の動向や世帯数の伸びは反映されていない。

我が国の経済活動、景気動向をよりの確に把握するため、家計調査を中核に、単身モニター調査の導入等による家計調査を補完・補強する基礎データの充実
ビッグデータや販売統計等の供給側統計も活用した、家計消費の動向把握や景況判断に資する新たな指標開発の検討
等を行うことが必要

